

無線通信機器の受信感度試験セットアップ

◇電波暗箱を活用した無線通信機器の受信感度試験

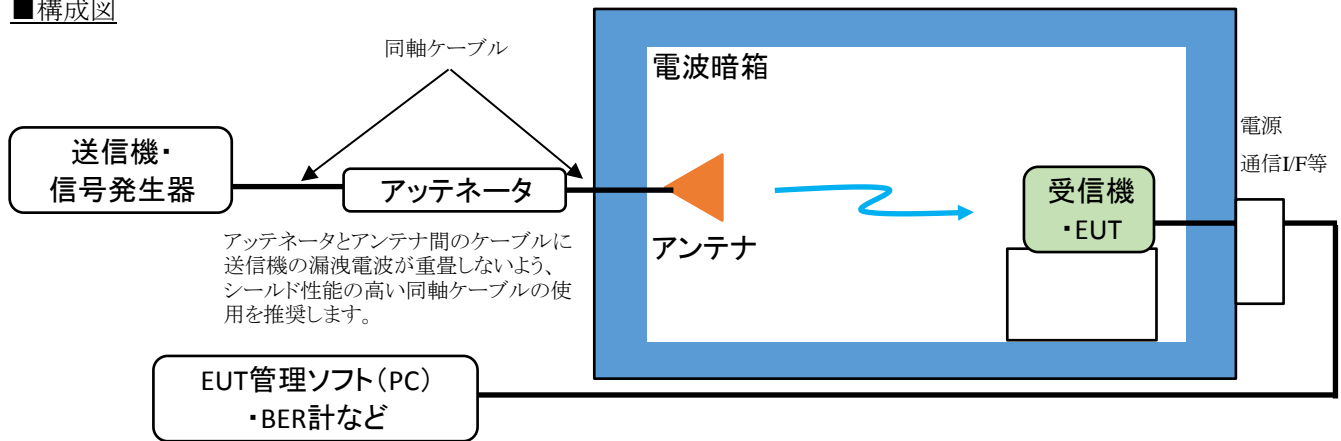
[アプリケーション ~*Application* ~]

昨今の無線通信機器の多くは、より遠くで電波が受信できるように受信感度が低く設計されています。またIoT機器をはじめとする小型の無線通信機器は、アンテナが基板実装されており、RFコネクタが無いものもあります。このような条件で受信感度試験を行う場合、周囲の雑音(ノイズ)が多いと、目的の電波がノイズに埋もれてしまい、正確な受信感度を測定できません。

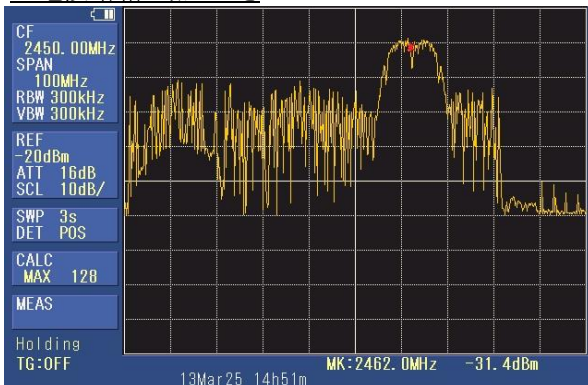
受信感度をより正確に測定するために、低ノイズ環境をつくることのできる電波暗箱の利用をおすすめします。

[ソリューション ~*Solution* ~]

■構成図

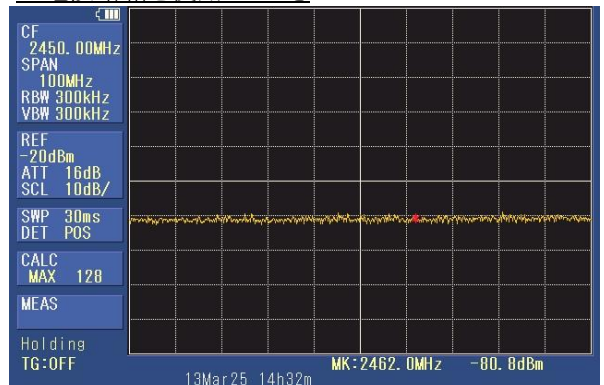


■電波暗箱が無いとき スペクトラムアナライザの画面



電波暗箱が無い環境では、受信機(EUT)は周囲のノイズの影響を受けてしまい、受信感度試験ができない。

■電波暗箱を使用したとき スペクトラムアナライザの画面



電波暗箱の蓋を閉じた中は、ノイズの無い(少ない)環境となり、受信感度試験に好適な条件といえる。

[システム構成・価格 ~*System constitution & Price* ~]

・電波暗箱(各種)	¥	198,000 ~
・プログラマブルアッテネータ(MAT810またはMAT800シリーズ)	¥	680,000 ~
・ステップアッテネータ(MAT850)	¥	368,000
・同軸アッテネータ(MG-XXdB)	¥	13,000
・同軸ケーブル(MC2XX)	¥	22,000 ~

上記表示価格には、消費税は含まれておりません。

製品の詳細については、弊社営業担当までお気軽にお問い合わせください。

2023/10